

# 平成 26 年度小笠原諸島における外来アリ類の 侵入・拡散防止に関する対応方針

平成 27 年 3 月

科学委員会

新たな外来種の侵入・拡散防止に関するワーキンググループ

## 目次

### はじめに 平成 26 年度小笠原諸島における外来アリ類の侵入・拡散防止に関する対応方針について

1. この対応方針の目的
2. 対象となる外来生物
3. 構成
4. 平成 26 年度対応方針の検討体制

### 第 1 部 小笠原諸島における外来アリ類の侵入・拡散防止に関する基本的な考え方

1. 外来アリ類が小笠原諸島で引き起こす諸問題
2. 小笠原諸島における外来アリ類への対策の基本的な考え方
3. 小笠原諸島において想定される外来アリ類の侵入・拡散経路
4. 外来アリ類の侵入・拡散の未然防止について
5. 外来アリ類の侵入・拡散の侵入時の対応について

### 第 2 部 父島・母島への侵略的外来アリ類の侵入時における緊急対応マニュアル【未然防止編】

### 第 3 部 父島・母島への侵略的外来アリ類の侵入時における緊急対応マニュアル【侵入時対応編】

- (1) 発見前の準備
- (2) 発見時の対応
- (3) 発見直後の対応
- (4) 外来アリ類対策検討会の緊急開催

### 第 4 部 参考資料編

1. 未然防止の対応事例
  - (1) 公共用資材の処理の対応事例
  - (2) 農業用苗への試行的実施の事例
  - (3) 園芸用の苗の試行的実施の事例
  - (4) その他生活・産業に関する物流への対応事例
2. 侵入後の対応
3. 基礎資料集

# 平成 26 年度 小笠原諸島における外来アリ類の 侵入・拡散防止に関する対応方針（骨子）

## I 対応方針の目的

小笠原諸島の島しょ生態系は、希少固有種を含む生物多様性の宝庫であり、世界遺産価値の重要な位置を占めている。一方でその生態系は海洋島であるがゆえに外来種の侵入に非常に脆弱であり、様々な外来種の侵入による生物多様性への影響が報告されている。

本対応方針の対象とする外来アリ類は、アカカミアリ及びアルゼンチンアリとする。

アカカミアリは、沖縄諸島においては沖縄島及び伊江島、小笠原においては硫黄島で確認されている。アルゼンチンアリは、日本各地で確認されており、港湾施設から物資に紛れて各地に拡散したと考えられている。両種とも、父島列島・母島列島・聳島列島では確認されていない。

これらの種が既に侵入が確認された日本本土の地域では、小型の節足動物の捕食、在来アリの競合・駆逐により、主に昆虫類へ被害をもたらしているほか、また、人への刺咬被害、餌となる甘露を提供するカイガラムシを本種が保護することによる農業被害など、人間生活に係る問題を引き起こすこともわかっている。そのため、小笠原諸島へ侵入した場合にも陸域生態系、人の生活、産業に大きな影響をもたらす恐れがある。

そのため、本対応方針は、外来アリ類が未侵入である島に外来アリ類を侵入させないことを目的に、侵入の未然防止と侵入時の早期発見、侵入時の緊急対応を図るものである。

## II 対象となる外来生物

侵略的外来アリ類のうち、特に侵入リスクの高い以下の2種を対象とする。

対象種	主な分布域
アカカミアリ <i>Solenopsis geminata</i> ハチ目（膜翅目）、アリ科	硫黄島、沖縄諸島の沖縄島及び伊江島
アルゼンチンアリ <i>Linepithema humile</i> 膜翅目 スズメバチ上科 アリ科	東京、神奈川、静岡、愛知、岐阜、京都、大阪、兵庫、岡山、広島、山口、徳島

## III 構成

第1部 外来アリ類への対応の基本的な考え方

第2部 父島・母島における外来アリ類対応手法行動マニュアル【未然防止編】 未定稿

第3部 父島・母島における外来アリ類対応手法行動マニュアル【侵入時対応編】 未定稿

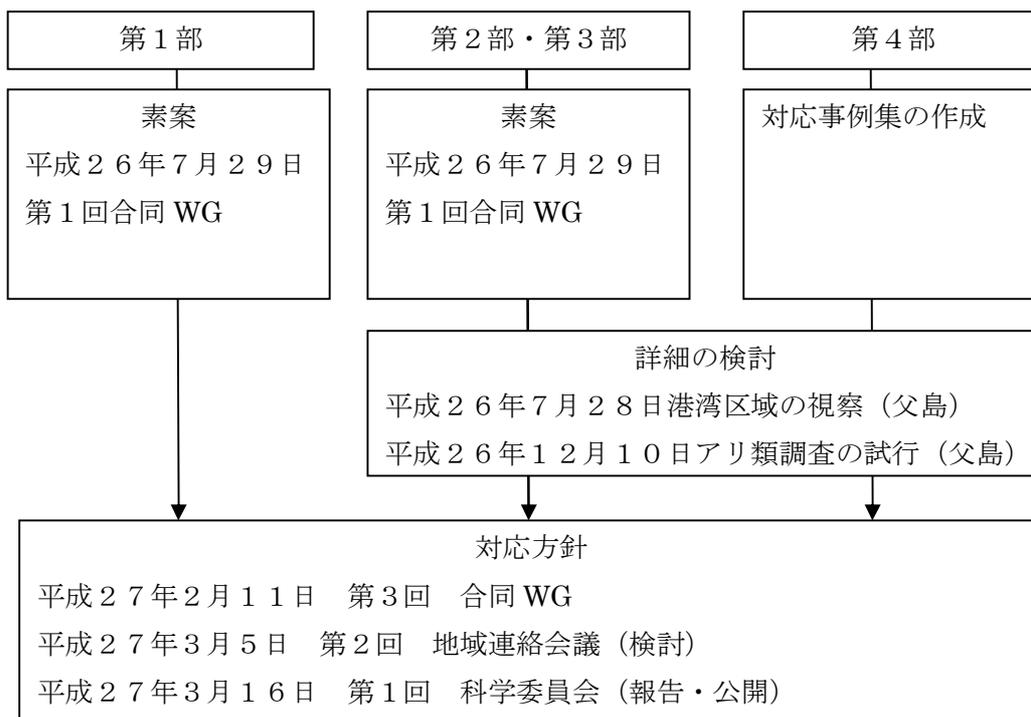
第4部 参考資料(対応事例集)

## IV 平成26年度の対応方針の検討体制

### 1. 科学委員会、地域連絡会議、検討会等の役割

- ・本対応方針の全体のとりまとめは、科学委員会下部「新たな外来種の侵入・拡散防止に関するWG」が検討を行う。
- ・第1部は、科学委員会下部「新たな外来種の侵入・拡散防止に関するWG」において検討する。
- ・第2部「未然防止編」は、科学委員会の助言を受けながら、具体的な対応については、地域連絡会議下部「新たな外来種の侵入・拡散防止に関する地域課題WG」において検討する。
- ・第3部「侵入に備えた対応編」は、科学委員会の助言を受けながら、具体的な対応については、地域連絡会議下部「新たな外来種の侵入・拡散防止に関する地域課題WG」において検討する。
- ・第4部は、これらに基づいて行われる試行的な取組や、実践された事例、その他実施の参考となる基礎資料を整理する。

### 2. 検討の流れ



(\*) 第2部、第3部については、平成26年度に十分な議論ができなかった。  
平成27年度に改めて、本WGに示す予定。

### 3. 対応方針の毎年の見直しと次年度の予定について

本対応方針は、未確立の技術が含まれていること、対応の参考になる事例が不十分であること、試行的な取組が様々になされていること、平成 26 年度に議論が行われなかった論点があることから、毎年見直しをすることを前提に議論を進める。

次年度、議論すべき論点及び重点的に実施すべき試行的な取組については、以下の通り。

- ・ 公共用資材・農業資材の輸送経路の把握
- ・ 外来アリ類のモニタリング体制の検討・試行
- ・ 外来アリ類の侵入時の対応の検討・試行

表1 科学委員会下部「新たな外来種の侵入・拡散防止に関するWG」

名称	新たな外来種の侵入・拡散防止に関するワーキンググループ
管理機関	環境省、林野庁、東京都、小笠原村
メンバー (★：座長) (敬称略・五十音順)	磯崎 博司 上智大学大学院地球環境学研究科教授（環境法） 加藤 英寿 首都大学東京 理工学研究科 助教（植物） 五箇 公一 国立環境研究所 主席研究員（昆虫類・外来種リスク評価） 千葉 聡 東北大学 東北アジア研究センター 教授（陸産貝類） ★吉田 正人 筑波大学大学院 人間総合科学研究科 教授 （保全制度） 【アドバイザー】 大林 隆司 東京都小笠原支庁産業課 小笠原亜熱帯農業センター主任 *必要に応じ関連分野の専門家をアドバイザーとして追加する予定

表2 地域連絡会議下部「新たな外来種の侵入・拡散防止に関する地域課題WG」

参加する立場 (*1)	外来種の侵入・拡散防止に関する地域課題検討WG (*2)
行政機関	環境省 小笠原自然保護官事務所 林野庁 小笠原諸島森林生態系保全センター 東京都 土木課、港湾課、産業課 小笠原村 総務課、産業観光課
農業資材、農作物苗関係	東京島しょ農協 父島支店、母島支店
属島利用、調査関係 (*3)	属島利用WG（小笠原自然文化研究所、小笠原野生生物研究会、小笠原村観光協会）

(\*1) メンバーは、テーマに応じて、構成を変更する。また、必要に応じ、外来生物の拡散防止に関わる事業の関係者、請負者等の参画を依頼する。

(\*2) 地域課題WGの位置づけについては、平成26年度第2回地域連絡会議にて議論。

(\*3) 属島利用、調査関係の議題については、平成26年度は議論していないため、関係者の参画は依頼していない（開催案内のみ）。